

相模川における内水面漁業について

神奈川県水産課

【現状について】

本県の内水面漁業生産量は 245t（令和 3 年）であり、河川別では相模川が 241t（98.4%）を占めており、相模川は内水面漁業において非常に重要な河川である。

また、相模川水系の漁業協同組合（漁協）は 6 組合が存在し、共同漁業権は相模川漁業協同組合連合会（相連）に免許されている。

共同漁業権を免許された相連は、種苗放流や産卵場造成等の水産資源の増殖義務が課されている。

相模川の共同漁業権

○（神奈川県）内共第 1 号

相模川本流及び支流の区域（一部上流域やダムなど除く）

漁業の名称 あゆ、やまめ、にじます、いわな、うぐい、おいかわ、ふな、こい、うなぎ、てながえび漁業

○（神奈川県）内共第 2 号

道志川合流点から上流の神の川本流の区域

○（山梨県）内共第 18 号

道志川本流（一部）

相模川の漁獲量のうち約 95%（令和 4 年）をアユが占めており、アユは相模川の重要な魚種となっている。

今回の水道システム再構築の影響を受ける可能性がある中下流域では、多くの組合員や遊漁者がアユ釣りなどを行っており、賦課金や遊漁料は相連及び漁協の重要な収入となっている。

また、この中下流域はアユの重要な産卵場にもなっている（図 1）。



調査期間

：10月30日～1月4日

調査場所

：横須賀水管橋
～神川橋下流

● 産卵が確認された場所

図 1 相模川の主要な産卵場（令和 5 年）

【アユの生活史】

アユは秋から冬にかけて中下流域で産卵し、孵化した稚魚は海に流下しプランクトンを餌として育ち、春に川を遡上する。堰等に遮られて上れなくなならないよう、魚道等が整備されている。川に上ったアユは主に石についたコケを食べ成長する。秋になると川を下り、中下流域で産卵し、死滅する（アユの寿命は1年）。

【魚類に適した（必要な）環境】

- ・アユの産卵場の確保
- ・アユの産卵に適した水深、流速の確保
- ・産卵に適した石の供給
- ・餌（コケ）
- ・アユの適水温の確保
- ・魚道機能の確保
- ・取水口への迷入防止

理想のアユ産卵場（数値は水産庁指針）

- ・水深 10～60cm
- ・流速 60～120cm/秒
- ・礫径 0.5～3cm 浮石状態の礫（小石）

【アユの増殖義務】

- ・毎年、アユ種苗 11 トン放流（図 2）
- ・漁業者による重機や人力で産卵場造成（図 3）。

【漁連・漁協の経営】

- ・収入の確保（賦課金、遊漁料）



図 2 アユ種苗放流



図 3 漁業者による産卵場造成